

ともに認めあい、ともに支えあい、ともに輝いて生きる、男女共同参画社会の実現をめざして…

# 山口市男女共同参画センター だより

平成30年3月号

発行:山口市男女共同参画センター  
編集:山口市男女共同参画ネットワーク広報委員会  
〒753-0074 山口市中央二丁目5番1号(山口市民会館事務所2階)  
TEL/FAX 083-934-2841 <http://www.y-djc.com/> [✉mw3kaku@c-able.ne.jp](mailto:mw3kaku@c-able.ne.jp)

## 第8回

# 山口市男女共同参画センター フェスティバル



国際交流ワークショップ



小島慶子氏講演会



販売コーナー



フラメンコ舞踊



子育てワークショップ



団体活動展示

平成 29 年 11 月 23 日 (木・祝) に第 8 回山口市男女共同参画センターフェスティバルが開かれました。会場となった山口市男女共同参画センター、市民会館展示ホールと小ホールには約 350 名の方々がおいでくださいました。当日の様子を紙面でご紹介します。



## 子育てワークショップ

### 「親子で楽しくサイエンス -196℃の世界を体験してみよう！」

講師：山口大学創成科学研究科准教授 原田 直幸氏  
山口大学国際総合科学部教授 崎山 智司氏

子育てワークショップには 15 組の親子連れが目輝かせて来場されました。

液体窒素は-196℃。空気に触れると一瞬で気体になって蒸発してしまいます。ここでゴムボールとバラの花を使って実験です。どちらも液体窒素に浸して凍らせると…なんと粉々に砕けてしまいました。



他にも、磁気浮上装置に乗ってリニアモーターカーの原理を実際に体験したり、大人も子どももワクワクびっくりの連続でした。この中から未来のリケジョや科学者が登場するといいですね。



## 国際交流ワークショップ

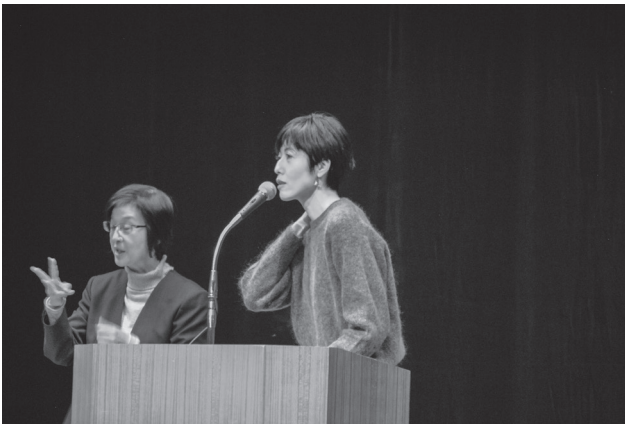
### 「パネルディスカッション 交流都市からこんにちは」

パネリスト：山口市国際交流員 マリア・ルビオ・カロ氏  
山口大学留学生センター教授 何曉毅氏  
山口県立大学講師 朴賢珠氏

まず、パネリストの方々に自己紹介を兼ねてなぜ日本に来られたかをお聞きした後、歴史や文化の違いや、日常生活の中での男性女性のあり方などで、日本との違いを感じた点を話していただきました。それぞれのお話がとても興味深く楽しいもので、参加者の感想にもあったように、「国際交流というと大きく構えてしまいが、それぞれのお国柄を話していただくことも立派な交流」だと実感しました。



## 「大黒柱マザー ～夫が仕事をやめたから一家で海外に引っ越してみた～」



オープニングアトラクションの山口県立大学フラメンコ部の華やかな舞踊、主催者である山口市長の挨拶に続き、タレントでエッセイストの小島慶子さんの講演会が開催されました。そのお話を短くご紹介します。

夫が20年以上のキャリアを捨てて、一度仕事を辞めたいと言い出しました。その数年前私が15年間勤めたテレビ局を辞めた時、夫は応援してくれたので私もそれを受け入れました。しかし、「無職で肩書なし」の夫に対してガッカリした自分に、「男が稼がなくては」という意識があったことに気付くともショックでした。

母からは「給料のいい会社に勤める旦那さんに養ってもらうのが幸せ」と言い聞かされて育ったけれど、失恋を機に、人に幸せにしてもらうのではなく自立して働ける仕事をとアナウンサーとして就職しました。それなのに、経済的自立は素敵だと思う一方で、「男はこうあるべき、女はこうあるべき」との刷り込みから抜け出せなかったのです。

私は、夫に「仕事を辞めて良かったね」と言えるように、東京以外の場所に住んで国内出稼ぎ妻になろうと思いつきました。そして、息子達が全く違う環境で育った人達とも上手くやっていけるようにと考えた末、オーストラリアのパスに教育移住を決めました。移住当時、英語を話せない夫が引越しの手続や船便の手配、もろもろの手続を一手に引き受けてくれ、1年で現地の生活にもなじめた時に、夫を頼りがいや生きる力のある人だと思えて、年収や肩書で人を見ていた自分から解放されました。

夫の人生にとって良い選択だったと思えるようになって4年が経ちました。移住してからは、私が稼ぎ手です。共働きから女の片働きになることがオーストラリアでうまくいくかどうかかわからないけれど、お互いの人生を尊重し合えればと思って踏み出したことでした。私は「男は稼がなくては、働かなくては」と強さを求められて傷付いていることに気付かず、「男は強いもの」だと思っていました。自分がたったひとりで家族を養うプレッシャーを、私も大黒柱になって理解しました。

日本では自殺者が年間で2万5千人いるそうです。弱音を吐いたり、困ったら誰かに頼ってもいいと思えるようになってほしい。自分で自分を縛らないように。「これがダメなら他もある。それもあなたの人生」といえるようでありたいと思います。

### 団体活動紹介パネル展示

今年度は、山口川柳吟社、山口市男女共同参画会議、山口消費生活研究会、やまぐちネットワークエコー、新日本婦人の会、こどもステーション山口、山口せわやきネットワーク、山口市男女共同参画ネットワークの8団体が出展しました。

会場の参画センター視聴覚室は休憩室を兼ねていたため、多くの方が販売コーナーやぜんざいコーナーから入って来ては展示を見ていただきました。



山口市男女共同参画センターでは、今年度からセンターで行う講座だけでなく、地域に出向いて行う事業を始めました。それが、「参画わいわいトーク」です。

日頃、「男だから」「女だから」と呑み込んでしまっているけれど、実はヘンだなあと思っていることはありませんか。「わいわいトーク」では皆でざっくばらんに話すことで、そんなモヤモヤを解きほぐし、誰もが気持ちよく暮らせる地域をつくるために欠かせない視点を育てていきます。是非、あなたの地域でもお気軽に「参画わいわいトーク」を開いてみませんか。団体名（自治会、市民活動団体、有志グループなどが対象）、実施時期、連絡先を添えて、電話、FAX、メールで下記参画センターまでお問い合わせください。

あなたとわたしの身近な男女共同参画



日頃、「男でラッキー！」“女でよかった！”と感じたこと、ありませんか？  
でも同時に“あれ、これってちょっとヘン!?”と気付くことはないでしょうか？  
その割り切れない思いの裏にあるものは・・・実は社会のしくみや、しきたりだったりするので  
す。「参画わいわいトーク」では、肩のこらない座談会を通じて、わたしの、あなたの、そんなモ  
ヤモヤを解きほぐし、誰もが生きやすい地域づくりに欠かせない視点を育てていきます。  
まずはお気軽にご参加ください！

日時 ○月○日(○) ○○:○○～

場所 ○○地域交流センター

参加費 無料

お申込み・お問合せは右まで



お願いします

【申込み・問合せ先】

山口市男女共同参画センター

Tel 083-934-2841

Fax 同上

E-mail mw3kaku@c-able.ne.jp



主催 山口市男女共同参画センター

## おんなの目 おとこの目

平昌オリンピックも日本選手の活躍が目立ったが、その中でもひととき注目を浴びていたのが女子カーリングチーム。

選手それぞれの資質が良いこともあるが、今回縁の下の力持ちだった本橋選手の見えないと

ころでの頑張りがチームを銅メダルへと押し上げてきたのであろうと思う。

「北見から五輪へ」という強い信念のもと、何もないところからクラブチームを立ち上げるには、様々な苦労があったものと推測される。スポンサー探しや、選手やスタッフのスカウティングも大変だったろう。企業チームとは違い、当面の選手

の就職先も見つけなくてはならないなど、家事や子育てをしながらよくここまでのチームを作ったと感心させられる。

引退を考えていた吉田選手に本橋選手が言った言葉「自分にも夢はたくさんある。でもその順番は自分で決める。」まだ、叶えられていないその夢の実現のため、今回感動をもらったみんなまで応援していきたい。